

ほんまもん王国 王様推奨 南紀エリア おすすめツアーで行く 熊野詣と湯巡りの“ええトコどり”プラン

王様推奨 南紀エリアお勧めツアーTOP

見どころ&学びのポイント

スケジュール 旅行金額の目安 約34,000円(航空運賃、宿泊代、語り部料金は含みません)
公共交通機関(バス・電車・飛行機)の時刻は事前に必ずご確認ください。

(プランの紹介)

1日目

09:05	東京(羽田空港)発 JAL1381便
10:15	南紀白浜空港着 移動 レンタカー(要予約)
11:13	熊野古道館見学と滝尻王子で熊野古道にふれる。移動 レンタカー
12:20	熊野本宮大社着 熊野本宮大社周辺で昼食 移動 13:22発 路線バス
13:40	発心門王子着 熊野古道ウォーク【発心門王子～熊野本宮大社 約7km】 (語り部の随行希望の場合は要予約 熊野本宮観光協会 TEL:0735-42-0735)
17:00	熊野本宮大社着 移動 レンタカー
17:30	熊野本宮大社温泉郷宿泊 【川湯温泉・湯の峰温泉・渡瀬温泉の各地から宿泊先をお選び下さい。】



1日目:世界遺産に登録された「紀伊山地の霊場と参詣道」の中辺路街道は「蟻の熊野詣」といわれる程、たくさんの方の参拝者が往来していったと伝えられています。今回は、熊野九十九王子の一つ発心門王子を出発して熊野信仰の聖地とされた熊野本宮大社までの熊野古道を楽しんだ後、熊野本宮温泉郷で1日目の旅の疲れを癒して下さい。

2日目

08:00	熊野本宮温泉郷宿舎発 移動 レンタカー(龍神温泉方面へ)
09:30	ごまさんスカイタワー展望台・遊歩道 移動 10:40 レンタカー
11:10	木族館・香房柚夢CAFEで昼食・昼食後近くの皆瀬神社を散策 移動 13:30 レンタカー
13:40	龍神村曼荼羅美術館・季楽里龍神交流イベントスペース見学 移動 14:30 レンタカー
14:40	龍神温泉宿舎着 龍神温泉街散策【温泉寺 曼荼羅の滝 (天誅倉約2km) 温泉街】
16:40	龍神温泉宿泊



2日目:龍神村エリアへ。紀州の屋根、護摩壇山を頂上とする龍神村の山並みは、いまだ雄大な原生林の大樹海を残している大自然の宝庫です。その山頂近くの「ごまさんスカイタワー」からは360度の大パノラマで素晴らしい山々の風景が楽しめます。清流日高川を見ながら四季折々の自然と、日本三美人の湯「龍神温泉」を堪能して下さい。

3日目

08:00	龍神温泉宿舎発 移動 レンタカー(田辺市街方面へ)
08:40	紀州備長炭公園・発見館 紀州備長炭風鈴づくりを体験 【要予約(1週間前まで TEL:0739-36-0301 秋津川振興会)】 移動 レンタカー
10:00	奇絶峡(秋は紅葉・春は桜がみどころです) 移動 10:30 レンタカー
10:40	秋津野直売所「きてら」 移動 11:20 レンタカー(闘鶏神社駐車場へ)
11:30	JR紀伊田辺駅で昼食 (JR紀伊田辺駅横南紀田辺観光案内センターにて「お昼ごはんマップ」・「街歩きマップ」を入手!) 移動 12:40 徒歩
12:50	南方熊楠顕彰館・南方熊楠旧居(南紀白浜方面へ) 円月島・白浜海底観光船グラスボート乗船 三段壁散策・洞窟探検 千畳敷 露天風呂 崎の湯 とれとれ市場(夕食、お買い物) 移動 18:20 レンタカー返却
17:25	
19:00	南紀白浜空港発 JAL1386便(季節により運行時間・便等が変わります)
20:35	東京(羽田空港)着 ご自宅へ



3日目:田辺市街地を經由して日本三古湯(道後、有間、白浜)の一つ白浜温泉へ。悠久の時間が作り上げた海の芸術、円月島や千畳敷、三段壁を巡り、雄大な太平洋が間近に迫る露天風呂で岩に打ち寄せる波を感じながら入浴していただき帰路へ。



熊野古道 発心門王子～熊野本宮大社

田辺市の魅力のひとつである世界遺産紀伊山地の霊場と参詣道「熊野古道」に触れてもらいます。まずは熊野古道館。ここは熊野古道関連の歴史的資料が展示されています。近くには熊野古道聖域の始まりの地とされている五躰王子の1つ滝尻王子があります。五躰王子とは熊野九十九王子社の中でも別格の位とされています。その昔「蟻の熊野詣」と称される程の巡礼者がここを通過して熊野本宮大社を目指しました。しばし歴史に触れてみましょう。

ウォークの出発点の発心門王子も五躰王子の1つです。聖地熊野への門でもあり、神域の入口とされていました。かつては「発心門」の大鳥居が立ち、それが王子名の由来となっています。神域に入る熊野詣の人々は大鳥居の前でお祓いをしてから鳥居をくぐりました。道中の見所としましては、かつて、弘法大使が杖で地面を突くと水が湧き出したとされる水呑王子(みずのみおうじ)や、高台にある伏拝王子(ふしおがみおうじ)はお社風景を一望した熊野詣の人々がそのありがたさのあまり伏し拝んだ事からそうよばれるようになったとされています。

今もなお、古道の雰囲気の色濃く残した道を歩き、いよいよ熊野本宮大社が近づいてきます。熊野本宮大社は、古くは「熊野坐(くまのにます)神社」という名で呼ばれていました。熊野三山の中心で、全国に3,000社以上ある熊野神社の総本宮です。「八咫鳥」は熊野権現の使いの三本足の鳥。向かって左に、第一殿・第二殿の相殿。相殿のため、第三殿や第四殿よりひと回り大きく、また、この相殿の正面に礼殿があるため、相殿が本社のように見えるかもしれませんが、中央の第三殿が主神を祀っています。第一殿を「西御前(にしのごぜん)」といい、熊野牟須美神(くまのむすみのかみ)と事解之男神(ことさかのおのかみ)を祀っています。

第二殿を「中御前(なかのごぜん)」といい、御子速玉之神(みこはやたまのかみ)と伊弉諾尊(いざなぎのみこと)を祀っています。

発心門王子から本宮大社まで約7kmの行程ですが、熊野本宮大社へ参拝する頃には十分熊野のロマンに浸っている事でしょう。宿泊はお好みで本宮温泉郷3つの温泉地よりお選び下さい。

問い合わせ先

熊野本宮観光協会 TEL 0735 - 42 - 0735

熊野本宮温泉郷 渡瀬・湯の峰・川湯

渡瀬温泉は四村川のほとりの渡瀬の里にあります。市営のクアハウスには8種類もの入浴タイプがあり、大露天風呂も楽しめます。

湯の峰温泉は開湯1,800年の日本最古の湯で、世界遺産登録された世界初の「つぼ湯」があり、熊野詣の湯垢離場(ゆごりば)でもありました。小栗判官と照手姫のドラマチックな物語も残っています。

川湯温泉は大塔川の川原を掘ると湯が湧き出す珍しい温泉で毎年11月～2月まで川をせき止め、巨大な仙人風呂が出現します。

問い合わせ先

チェックしよう 熊野本宮観光協会 TEL 0735-42-0735

護摩壇山ごまさんスカイタワー

標高1,372mの和歌山で一番高い山の護摩壇山は、紀州の屋根とも呼ばれています。護摩壇山の山名の由来は源平合戦の際、戦に敗れた平維盛が護摩木を組み上げ、煙の立ち上る方向で命運を占った場所であるといった伝説によるものです。

護摩壇山山系の尾根沿いを国道が1本走っています。高野町から田辺市龍神村を結ぶ全長42.7kmのこの道路は高野龍神スカイラインとよばれてい



ます。スカイラインを通り、護摩壇山の山頂付近にごまさんスカイタワーがあります。ここには食堂や展望塔があり、休憩所になっています。変わったデザインの展望塔は、護摩供養をモチーフにしています。天気が晴れば展望塔から、奈良県の大峰山系や、紀伊水道越しに四国の山々まで、まさに360度の大パノラマを見ることが出来ます。ごまさんスカイタワー横には、山頂まで500m程の遊歩道もあります。山頂を越えて、国立自然公園の森林公園ワイルドライフに向かう事も出来ます。冬季には南紀とは思えない程の雪が積もります。冬の早朝、運が良ければ樹氷も見ることが出来ます。但し11月末から3月末までは夜間(17:30～翌朝7:00)通行止めとなっておりますのでご注意ください。

問い合わせ先

チェックしよう (社)龍神観光協会 TEL 0739-78-2222



龍神温泉

龍神温泉はその昔役の行者小角(えんのぎょうじゃおづぬ)により発見され、後に弘法大師が難蛇龍王のお告げによって開湯したと伝えられています。1300年余りの歴史があり、徳川時代の紀州の藩主、徳川頼宣により、別荘温泉地として栄えた伝統と由緒ある名湯となりました。

いつの頃からか、群馬県吾妻町の川中温泉・島根県斐川町の湯の川温泉と並び日本三美人の湯の一つとして数えられており、泉質はナトリウム炭酸水素塩泉(純重曹泉)でラジウムの放射量が多く、肌を美しくする効果があります。

問い合わせ先

チェックしよう (社)龍神観光協会 TEL 0739-78-2222



南方熊楠顕彰館・旧邸

田辺市の偉人として挙げられている南方熊楠の膨大な研究資料と功績を知る事ができます。

和歌山県田辺市を後半生の研究と生活の拠点にした南方熊楠(1867～1941)の学問の大きな特徴は、田辺という紀伊半島の小都市に住みながら、海外の学者とのやりとりや、ロンドンの科学雑誌への投稿を通じて、常に世界の知的情報の流れとつながっていたことにあります。地域の人々の生活や自然生態系に根ざしつつ、より普遍的な世界の理解を目指すという姿勢は、21世紀の現在においても、あるべき姿として、様々な分野から広く注目されています。

南方熊楠邸に遺された蔵書・資料を恒久的に保存し、熊楠に関する研究を推進し、その成果の活用を図り、熊楠について顕彰するための施設として、南方熊楠顕彰館が平成18年5月14日にオープンしました。顕彰館では、所蔵資料を大切に保存しつつ、広く所蔵資料を公開しています。また、顕彰館のオープンとともに、南方熊楠邸の公開も再開いたしました。顕彰館では、熊楠についての情報や学ぶ場を提供し、南方邸では、熊楠の生活と研究の拠点であった場所、空間を実感していただけます。

問い合わせ先

チェックしよう 南方熊楠顕彰館 TEL 0739-26-9909

